

令和4年度 第2学期終業式式辞

長かった2学期も本日終業式を迎えました。

2学期もまた、新型コロナウイルスが8月半ばから全国的にまん延するなかでのスタートとなりました。そうしたなか、文化祭、中学体育祭、中3・高IIの研修旅行も何とか終えることができたことは大変喜ばしいことでした。あらためて、これらの行事に主体的に関わってくれた生徒諸君に感謝したいし、それぞれの学校行事をとおして、皆さん一人一人が何らかの成長を遂げてくれているものと思っています。

その2学期の皆さんの成績が、先日までの三者懇談で示されました。順調に学んだことを身につけた人、なかなか学んだことが定着できていない人、毎日の生活リズムや生活習慣が確立できている人、遅刻や欠席が増えてしまっている人、さまざまです。自分の体調と相談しながら頑張っている人がいることも理解しています。自分自身の現状を謙虚に見つめ、先生方からのアドバイスを参考に、少しでも改めなければならない点を改善し、自分自身の成長につなげてもらいたい。

さて、先日、サッカーワールドカップのカタール大会がアルゼンチンの優勝で幕を閉じました。日本代表もドイツ・スペインを相手に歴史的勝利をあげ、ベスト16に勝ち上がりました。寝不足のなか、テレビをとおして応援していた人もいたのではないのでしょうか。

予選リーグを勝ち上がった日本の選手たちのインタビューを聞いていると、「チーム一丸となって」とか「全員の力で」、また「ねばってねばって」とか「あきらめず仲間を信じて」といった言葉を多くの選手が使っていました。三苦選手の「ゴールライン上、奇跡の1mmのプレー」は、まさに「最後まであきらめないプレー」の象徴でありました。

また、普段ドイツのプロサッカーリーグのブンデスリーガで活躍している吉田麻也選手は、日本のキャプテンとして審判に抗議するときは英語で話し、常に「相手選手をリスペクト（尊重・尊敬）して」と話していました。「相手をリスペクトする」ということは、他の国の監督も使われており、「相手を尊重し、敬意をもって戦う」という意味です。世界で活躍する選手や関係者の数々の言葉にスポーツの大切な本質を見た想いがしました。

日本の武道である剣道や柔道などにおいても「礼に始まり、礼に終わる」という精神を大切にされています。対戦相手や日頃練習をともにする仲間への尊重と礼儀を尽くすことの大切さを説いています。

私は高校時代ラグビー部に所属していました。ラグビーでは試合終了を「ノーサイド」といい、試合が終了すれば、敵と味方、勝者と敗者の区別はなくなり、お互いの健闘を讃えようというメッセージが込められています。コンタクトの激しい場面が多いラグビーだからこそ、ノーサイドの精神を大事にしようとする文化が受け継がれています。

こうした精神は、昔も然り、ましてやグローバル社会と言われる現在だからこそ、人として大切にしなければならないことなのです。

皆さんが日頃行っている部活動においてははどうでしょうか。他者を敬い、仲間を大切にしていますか。

部活動については、文部科学省は「生徒の自主的、自発的な参加により行われるもの」とし、「学習意欲の向上や責任感、連帯感を涵養（養い育てる）する」ものであると、その意義を説明しています。「生徒の自主的、自発的な参加」とは「生徒個々が自らの意志と責任をもって行う」ことを意味し、「部員が互いに協力し合って友情を深め、好ましい人間関係を作り上げる」ことを目的としています。

学校における部活動は、運動部・文化部を問わず、こうした基本的な考え方の基で行われる活動であることを理解し、自分たちはどうか、自分自身はどうであるかをあらためて確認し合って欲しい。

ある高校のある部の戦績を掲載したHPには、以前から必ず「対戦していただいた〇〇高校の皆さん、ありがとうございました」と記されています。私はこの部の練習を何度か見たことがありますが、顧問の先生がその場になくても、全体がまとまった効率のいい練習をしているなと感じました。そうした雰囲気の中で「相手をリスペクト」する感性が養われているのだと思っています。

高校3年生の皆さん、皆さんにとって「いよいよ・・・」の時期を迎えました。

サッカーワールドカップで優勝したアルゼンチンのメッシ選手は「努力は報われる？ そうじゃないだろう。報われるまで努力するんだ」と言っています。努力しても結果が伴わないとき、思っているように点数が伸びないこともあります。しかし、努力は無駄ではありません。必ず報われるときが来ます。現役生である皆さんは、これからの期間で間違いなくまだまだ伸びます。行きたい進路をしっかりと見据えて、自分の力、報われるときが来るのを信じ、冬休み、三学期と努力を続けてください。期待しています。

ところで、皆さんにとって今年のテレビコマーシャルで印象に残っているのは何ですか？ テレビを見てないから思いつきませんか？

先日、奈良新聞の1面のコラム欄に「某ビール会社のCM」のことが記されていました。女優の新垣結衣さんが「日本のみなさん、おつかれなまです」と微笑みかけるあのCMです。

コラムでは、「『おつかれなまです』と、まるで自分に声かけされているような錯覚を覚えた人も多少はいるかもしれない」と。私もその一人です。

このCMのバックに流れる曲は、君たちにとってはほど遠い時代の、昭和59（1984）年に竹内まりあさんの作詩・作曲によるもので、薬師丸ひろ子さんのアルバムのために書き下ろした曲です。失恋で傷心の女友達を励ますもので、歌詞の最後には「人生はあなたが思うほど悪くない 早く元気出してあの笑顔を見せて・・・」というフレーズがあります。

先のコラムの最後は「コロナ以外にも、世界中で予期せぬ出来事が次々と起こり、気持ちが晴れることの少ない一年だった。来年はぜひ、平和が戻る年にしたい。世界中の苦しむ人々に「早く元気を出して、あの笑顔を見せて・・・」のフレーズが届いて欲しい。」と結ばれていました。

「元気」とか「笑顔」は日常的によく使う言葉ですが、伝える相手によっては、非常に重い意味のもつ言葉だなとあらためて感じたところです。

今年も残すところ一週間。今年一年が決して順風ではなかった人もいるかも知れません。皆さんには冬休みを事故なく安全に過ごし、よい新年を迎えてくれることを祈念して、私の話を終わります。

以上